

薬連ハイライト

日本薬剤師連盟役員決まる

令和8年4月1日から令和10年3月31日を任期とする本連盟役員が下記の通り決定した。

会長	岩月 進	愛知県
幹事長	川田 哲	神奈川県
副会長	大澤 泰輔	兵庫県
副会長	原口 亨	福岡県
副会長	丹羽 松弘	愛知県
副会長	加茂 雅行	宮城県
副幹事長	浜田 嘉則	高知県
副幹事長	小屋敷淳子	山口県
常任総務	澤井 康行	静岡県
常任総務	千葉 恵子	青森県
常任総務	福森 一真	宮崎県
常任総務	角田 俊人	北海道
常任総務	小黑佳代子	群馬県

常任総務	吉岡 加織	東京都
常任総務	山内 大輔	埼玉県
総務	今井 章人	茨城県
総務	和泉啓司郎	病薬
総務	田城 涼子	福岡県
総務	竹本 貴明	広島県
総務	熊倉 明子	女薬
総務	本田多嘉子	大阪府
総務	中森 慶滋	石川県
総務	藤本 高弘	兵庫県
総務	亀山 達也	佐賀県
総務	東洋 輝武	北海道
総務	土屋あゆみ	東京都
総務	日高 玲於	東京都
監事	村松 章伊	愛知県
監事	内野 悟	鹿児島県
監事	内藤 貴夫	山梨県

オレンジ日記

令和8年度予算の成立と今後

参議院議員・薬剤師
本田 顕子



徐々に新緑色が映える季節となりました。

高市内閣の下、「強い経済」を実現する上で重要な令和8年度予算は、暫定予算の成立をもって予算上の空白を生じさせることなく、4月7日に可決成立しました。

本予算の成立に際し、私はあらゆる政策分野が審議対象になり地上波中継も入る予算委員会において、衆議院から送られてきた3月16日から常時審議に張り付き、委員会前後の与野党理事による日程協議などにも加わりました。とてもタフな23日間を過ごし、その間、3月24日の公述人質疑と最終日の集中審議の計2回質問に立つ機会を得ました。

予算が執行段階に入ると、国会では政府提出法案の審議が本格化します。所属する厚生労働委員会では健康保険法等の一部を改正する法律案をはじめ、国民生活に直結する法案の審議が予定されています。また、政権与党内では年末の次年度（令和9年度）予算編成に向けて重要な「足場」となる「成長戦略」や「骨太方針」の策定に向けた動きが加速化します。

予算委員会でのタフな対応と同様、あるいはそれ以上に力を尽くし、薬剤師連盟の皆様と4名の薬剤師議員とで情報共有と議論を重ねながら、薬剤師や薬業界を取り巻く課題解決と健全な発展につながる政策の実現に向けて皆様の声をしっかりと届けてまいります。

政幸だより

若者の自殺と 指定濫用防止医薬品の指定

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸



政府は「令和7年版自殺対策白書」を令和7年10月24日に閣議決定し、公表しました。「自殺対策白書」は自殺対策基本法に基づいて、我が国の自殺の概況や自殺対策の実施状況を取りまとめた年次報告書です。令和6年の状況を記した令和7年版では、第2章で「若者の自殺をめぐる状況」について特集しています。国内全体の自殺者数が減少傾向にあるなかでも、小中高生の自殺者数が過去最多水準となり、10代・20代の自殺者数も高止まりが続いていることを踏まえ、15歳～29歳の若者を対象にさまざまな視点から自殺の状況を分析しています。自殺の手段について若年女性は、男性や女性（全年齢）に比して「服毒（医薬品）」の割合が高く、若者の自殺未遂の手段で、最も多いものは過量服薬とされています。

若者によるいわゆるオーバードーズは社会問題化しており、特にデキストロメトルファンについては、令和7年5月13日の参議院厚生労働委員会において、濫用の実態も踏まえて指定対象の見直しを検討すべきではないかと厚生労働省の考えを質しました。

令和8年1月23日に開催された令和7年第3回薬事審議会医薬品等安全対策部会において、これまでの6成分（エフェドリン、コデイン、ジヒドロコデイン、プロモバレリル尿素、プソイドエフェドリン、メチルエフェドリン）に新たにデキストロメトルファンとジフェンヒドラミンの2成分を加え合計8成分が指定濫用防止医薬品に指定されることが決定され、本年5月1日から施行されます。また濫用実態を踏まえ、現時点ではトローチ剤を含めた外用剤は指定対象外とし、今後の実態状況により見直しを検討することとされています。市販薬の濫用防止対策に取り組むご活動を、しっかりと応援してまいります。